

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まなび		
○保護者評価実施期間	2026年 1月10 日		～ 2026年2 月6 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年1 月10 日		～ 2026年1 月31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2 月20 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、児童指導員5年以上経験している専門職が、療育・支援を行っている。	一人一人のアセスメントを各専門職の視点で行っている。療育お迎えの時に、保護者にフィードバックの時間を設けている。	客観的な評価、アセスメントを行い、強みを生かした支援、弱みに対する環境調整や配慮を行っていく。
2	同一法人に児童発達支援事業所があり、継続した療育が行える。	就学前からかわりを持つことができ、入学後も保護者や先生と引き継ぎやり取りを行っている	ライフステージが変わった際に、保護者や進路先等に情報を提供する
3	外部機関、講師を呼び多種類の活動を設けている。(太鼓、音楽、アート、英語、体操教室など)	年に1度、発表会を行い音楽、アート、太鼓などの練習の成果を保護者や関係機関の方を招待している	行える活動を継続して回り、新しい活動も機会があれば取り入れていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会や交流イベントの周知、発信不足による参加率が低い。	お知らせはLINE等で発信しているが開催内容の発信不足	個別にお知らせをしていく必要がある。
2			
3			